

ゴム製品100年 時代とともに

福山市松浜町でゴム製品の生産が始まってから、3月で100周年を迎える。戦後、互いに競って成長しようとした3社が分離独立。履物、土木・建築用品、自動車部品……。時代の変化に合わせて新たな製品を生み出してきた。

(熊本直樹)

JR福山駅の南東約1・5kmに、3社の工場や事務所が隣り合う。戦後の経済成長や都市化の中、街中の工場の多くは郊外に移ったが、松浜町は今も往時の面影を残す。

早川ゴムの早川雅明社長は「新製品の開発を生命線に、万華鏡のように変化してきた」と語る。売上高のうち新製品の比率を30%以上にする方針を貫く。

主力はコンクリートへの浸水を防ぐ止水材や防水シート、履物や振動を防ぐ素材など。ビル建設や配管工事と用途は幅広く、昨年4月には市内に新工場を設けて生産能力を高めた。その原点はゴム履物作りにある。

良きライバル

1916年、履物の生産を始めた。36年、早川ゴム製造所を設

福山市松浜町

分離3社 競い合い成長

履物から車部品・建材へ

立。47年、同製造所から早川ゴム工業、現在の広島化成と福山ゴム工業が分離独立した。当時の経営者がこれから自由経済に向かう。良きライバルとして互いに成長しよう」と判断。54年、同製造所と早川ゴム工業が合併して早川ゴムになった。

3社とも主力は草履や長靴などの履物だったが、次々と新製品を生んだ。

広島化成は自動車部品や床材などの生産を始めた。最近では自動車部品の事業を拡大。今年6月、芦南市に新工場を稼働する。2017年にはインドネシアに海外初の白土工場を構えた。いずれも三菱自動車向けのドア回り部品を造る。

過去にはボウリングの球など生産をやめた製品も多い。西瀬一社長は「時代に即して変化し、若い

人が活躍し続けられる会社を目指す」と語る。

代替しにくい

福山ゴム工業は「ゴムクロール」の大手。パワースイッチなどの建設機械の地面に据える部分、無敵軌道に付ける部品で、脱輪しにくい構造や耐久性に強みがある。履物事業では昨年、スニーカーを商品化するなど新事業にも挑んでいる。

中島秀司社長は「金属は腐蝕などに置き換わっているが、ゴムの特性は他の素材では代替しにくい。可能性を追求し続けたい」と力を込める。

早川ゴムは100周年のスローガンに「激変挑戦」を掲げた。過去に学び、未来に挑戦する意味の造語。道路や水道などのインフラやマンションが全国で老朽化する中、改修のニーズは爆発的に増える。早川社長は「常に挑戦し、失敗を許す社風が昔からある。100周年を通過点に、培ってきた技術を多様な分野に生かす」と決意を新たに



①3社の工場が集まる福山市松浜町。左上の建物はリーデントリース
②早川ゴムの松浜工場

